

2021 まちづくりアドバイザー活動事例集

【北 区】	(担当：西原 秀倫)	
次期北区基本計画		1
北区こどものまち		1
【上 京 区】	(担当：松井 朋子)	
新しい生活スタイルを促進！地域をつなぐ「スマホ活用」ふれあい事業		2
エール交換 レター&ノート		2
【左 京 区】	(担当：大塚 敏之)	
みんなで作る「左京朝カフェ」		3
左京からだの学校 「OB会設立支援」		3
【中 京 区】	(担当：浅田 真実)	
中京つながるハンドブック		4
中京マチピト Cafe オンライン		4
【東 山 区】	(担当：加藤 ゆうこ)	
初のオンラインカフェ開催とフォローアップ		5
東山はぐくみハッピーギフトのスタートアップ支援		5
【山 科 区】	(担当：佐藤 友一)	
明日の山科 WG「山科 PR プロジェクト」		6
市民しんぶん山科区版連載記事“きずな”リレーの記事作成		6
【下 京 区】	(担当：天岡 昌代)	
下京区まちづくりサポート事業『SHIMOGYO+GOOD』		7
松原通界隈活性化活動プロジェクト委員会		7
【南 区】	(担当：木村 響子)	
南区の広報発信に関わる取組		8
南区地域に関わる情報収集・場づくり		8

【右京区】	(担当：朝倉 眞一)	
右京区基本計画策定とこれからの向けたしくみづくり		9
京都京北未来かがやきビジョン推進会議の企画・運営		9
【西京区】	(担当：田尾 純子)	
未来の西京まち結び～みらまち結び～		10
西京区総合庁舎整備 設計ワークショップ		10
【西京区洛西支所】	(担当：吉田 泰基)	
「大原野「地域ブランド」戦略」の取組		11
らくさいマルシェ実行委員会による賑わいづくり		11
【伏見区】	(担当：亀村 佳都)	
伏見をさかになにざっくばらん		12
向島ニュータウン活性化に係る取組の推進		12
【伏見区深草支所】	(担当：白水 育世)	
「深草の魅力『知って』・『感じる』体感プロジェクト」企画助言		13
「独居高齢者の生活に係る地域での支え合いの輪づくり」支援		13
【伏見区醍醐支所】	(担当：谷 亮治)	
醍醐定例会議		14
オンラインだいたいいきいきフェスティバル		14
【地域コミュニティサポートセンター】	(担当：小林 明音)	
新しい地域活動スタイル 活動別の工夫・アイデア事例		15
地域コミュニティを考えるまちづくりアドバイザーの会		15

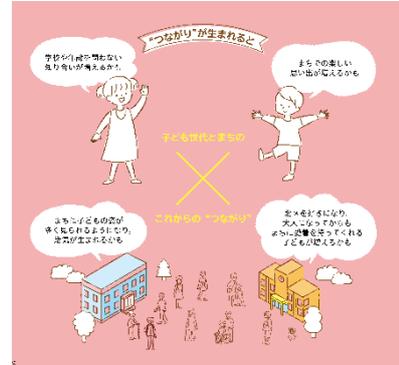
次期北区基本計画

【事業概要】

北区の将来の姿や目指すべき方向性を、区民と北区役所とが共有するための、5年間の長期的なビジョンとなる次期北区基本計画の策定を進めています。

北区民まちづくり会議や部会での、活発な議論を通じて生まれた約1000もの意見をもとに、“つながり”をキーワードに子どもや働き世代、大学生などライフステージ等に応じた取組アイデアを描きました！

さらに、まちづくりに関わる人や情報が気軽に交わるオンラインネットワーク「北区まちづくりプラットフォーム」を構築し、“つながり”の力によるまちづくりの推進につなげていきます。



【役割／関わり方】

より多くの区民がまちづくりに関わりをもつ計画の編集

- 多様な視点や想いを引き出す対話の場づくりを支援
- まちづくりへの興味や関心につながるデザインや広報への提案
- 多くの区民の参画による計画推進に向けた体制づくりへの助言

北区こどものまち

【事業概要】

未来のまちづくりを担う子ども達が、楽しみながら自分のまちを創り、まちの仕組みを学ぶニコニコ北っ子「北区こどものまち」。

今年度は、コロナ禍でイベント開催が困難ななか、より多くの子ども達にまちづくりの楽しさを知ってもらおうと、「ボードゲーム版北区こどものまち」を作っています！



昨年度、途中までまちをつくっていたこどもスタッフのみんなが、オンラインで会議に参加し、お店やまちのアイデアを出し合い、“HAPPY”をテーマにしたゲームを制作しています。子どもだけでなく、大人も一緒に楽しめる「ボードゲーム版北区こどものまち」は、春にお披露目予定です。

【役割／関わり方】

多様な主体の連携による事業の推進

- こどもが楽しく取り組めるプログラムの作成や会議の運営を支援
- 大学や大学生、事業者などが協働で事業を進めるためのコーディネート
- 大学生スタッフによるこどものサポートや情報発信への助言

この事業を担当したアドバイザー：西原秀倫

【上京区】

新しい生活スタイルを促進！地域をつなぐ「スマホ活用」ふれあい事業

【事業概要】

三密を避けた地域活動，外出が減った高齢者の心身の健康をサポートする目的で，手持ちのスマホでいつでも簡単にコミュニケーションが取れるよう，スマートフォンアプリ「LINE」の機能を学び，使いこなせるようにする講座や，地域活動や防災・防犯等にスマホを活用する講座を実施しました。



【役割／関わり方】

企画立案時から関わり，事業の進め方を調整。講師となりうる団体への協力呼びかけとマッチング。講師，事務局との連絡調整。

- 事業会議（振り返り会議含む）のファシリテーター
- 講座で使用するスマホ基礎スキルの資料作成
- 学生スタッフへの教室参加呼びかけ（LINE オープンチャット使用）
- 申請団体へ実施する事前アンケートから傾向を読み取り，講師と内容調整
- 事後アンケートの取りまとめと振り返り資料の共有

エール交換 レター&ノート

【事業概要】

地域（中立案学区，待賢学区）の高齢者と同志社大学ボランティア支援室学生スタッフ有志の交流をノートや手紙を使って行う事業です。毎月実施の上京朝カフェ参加者からの発案で，オンライン会議の中で事業内容が決まりました。地域の民生児童委員さん等，同志社大学，区役所が連携してレター等の受け渡しをしています。



参加者（地域，学生）へのアンケートでは，世代を超えて趣味や興味のあることの情報を教え合い，互いの身体や気持ちを気遣い合う様子がうかがえて，関係者一同は非常に感動しました。

【役割／関わり方】

企画立案者と興味がありそうな方を集めたオンラインワークショップの実施，進行

- オンライン，実会場での会議の進行役
- 地域で事業参加を呼び掛けるチラシの作成
- 地域の参加者に対するアンケートフォームの作成
- アンケートの集計，分析

【左京区】

みんなでつくる「左京朝カフェ」

【事業概要】

左京区では、区民主体のまちづくり活動を支援する取組として、『左京朝カフェ』を開催しています。

左京のまちづくりに関心ある人が集い、ワークショップ形式のざっくばらんな対話を通じて、新しい仲間やまちづくり活動のアイデアと出会います。

今年度は、普段の会場である区役所を飛び出しての「出張朝カフェ」や、コロナ対策としての「オンライン朝カフェ」を開催するなど、区民スタッフと協力しながら、新たな取組にも挑戦しました。



【役割／関わり方】

区民によるまちづくり活動の伴走支援

- 事業全体の方向性に関するアドバイス
- カフェ各回の企画運営に関するアドバイス
- 参加者、区民スタッフからの相談対応

左京からだの学校「OB会設立支援」

【事業概要】

左京区では、2017年より3年間、シニア世代を対象に『からだの学校』を開校しました。現在は、その3期生（卒業生）を対象に、地域における自主的な活動を促す目的で、「OB会」の設立を支援しています。

昨年10月に、卒業生から有志を募って準備委員会を立ち上げるところからスタートし、ミーティングを重ねてようやく設立の見通しが立ちました。

現在は、春からの活動開始に向けて、会への参加者と、共に企画運営を担ってくれるメンバーを募集しているところです。



【役割／関わり方】

区民による自主的な活動の立上げ支援

- OB会の設立に関するアドバイス
- 活動内容の企画運営に関するアドバイス
- メンバー間のコミュニケーション支援（LINEグループ）

この事業を担当したアドバイザー 大塚 敏之

中京つながるハンドブック

【事業概要】

新たに地域活動を始めてみたい方向けに、情報の集め方や始め方、広報のコツや既存の活動紹介などを掲載したハンドブック（冊子）を作成しました。過去3年間実施した中京マチビトライター講座の内容を踏まえると同時に、作成に当たっては卒業生にもご協力いただきました。

コロナ禍におけるまちづくり活動や広報発信の現状、オンラインやSNSの活用等を踏まえたコンテンツの充実を図りました。



【役割／関わり方】

企画から取材、原稿作成までの全般サポート

- ハンドブックのコンテンツ、構成等、企画全般に関するアドバイス
- 外部講師との調整、月1回の打ち合わせ
- 取材、原稿作成のサポート

中京マチビト Cafe オンライン

【事業概要】

平成24年から、中京のまちを元気にしようとまちづくりに関わる（関わりたい）参加者が集い、話し合いたいテーマについて語り合っていただく交流の場を運営してきました。

今年度は3回全てをオンライン開催。オンラインに不慣れな方でも参加しやすいよう、前日にはZOOM練習会を設定し、オンラインでも安心して話せるプログラム設計、場づくりに努めました。



【役割／関わり方】

オンラインでの企画立案・プログラム作成から実施までの全般サポート

- ZOOM導入に向けた先進事例の情報提供や企画調整等、オンライン化に関わるアドバイス
- FB発信等による新規参加者層へのアプローチ
- ゲストとのマッチング、打ち合わせ
- ワークショッププログラム作成、当日ファシリテーション
- 開催後の参加者フォロー

【東山区】

初のオンラインカフェ開催とフォローアップ

【事業概要】

広い会場で多数の人達が意見を交わしていたまちづくりカフェ@東山に代わる場として、区で初となるオンラインカフェを開催しました。0歳児の親子から80代のオンライン会議初体験の方まで多数の参加がありました。乳幼児の保護者の「オンラインだと参加しやすい」の声をヒントに、子どもの親、まちづくり支援事業団体、学生、大学教員、中間支援団体等が気軽に話し合えるよう工夫しました。



【役割／関わり方】

実施計画から当日運営、終了後のつながりを希望する人達へのフォローを実施

- オンライン会議開催について、通信環境設定や対話の促進方法について、他地域の事例紹介などで企画・実施に協力しました。
- 当日は、区役所と共に当日の進行を担い、全員で共有する時間と小グループでの対話の時間を組み合わせ、初めての方でも話しやすい場づくりに努めました。
- 終了後、参加者同士の「もっとつながりたい」という多数の希望に応えて、それぞれをつなぐサポートをおこないました。

「東山はぐくみハッピーギフト」事業のスタートアップ支援

【事業概要】

少子化の進む東山区では、以前から、地域での子育ての不安や心配事の相談・支援を行っている主任児童委員による新生児宅への訪問を実施していましたが、訪問を希望する方が少ない状況でした。そこで、より気軽に相談や声かけをしてもらえるように、東山ならではのプレゼントを添えて訪問する「東山はぐくみハッピーギフト」事業を、令和2年9月から開始しました。伝統産業など地域の事業者の方々に協力していただき、ギフトをきっかけに訪問機会が増えるようPRに努めた結果、当該事業開始前よりも数多くの申込があり、子育て家庭と地域とのつながりづくりに役立っています。



【役割／関わり方】

関係者の意見をできるだけ聞きながら進められるよう、提案・助言

- 多彩な分野の地元事業者、大学連携先、NPOなど、子育てを見守るネットワークが広がるように、さまざまな人や団体を推薦・コーディネートしました。
- 実際に訪問する主任児童委員の意見や新生児の保護者の意見を今後につなげていくため、東山区子どもはぐくみ室では初めてとなるワークショップ（地域子育てワークショップ）の提案と実施協力をしました。

この事業を担当したアドバイザー 加藤 ゆうこ

明日の山科 WG「山科 PR プロジェクト」

【事業概要】

山科区内の全自治連合会で構成される山科区自治連合会連絡協議会の総会「明日の山科を考える」での議論から、課題解決に向けて継続して話し合う3つの自主WG(ワーキンググループ)が平成31年度に生まれました。そのうち若い世代に向けて山科に住みたくなるような情報をPRする「山科PRプロジェクト」は、新型コロナウイルスの感染拡大により一時中断。令和2年の夏以降にオンラインツールを使って議論を継続することになり、9月から約3週間に1回のペースで会議を開催しました。



その結果、都心へのアクセスも良い一方、農地が残り山も近いという田舎の要素もあってホッとできるという住みよさを「ちょいなか山科」というコンセプトで表し、短編動画の作成をしています。

【役割/関わり方】

話し合いの進行のサポート、Zoom会議実施の技術的な支援

- ホワイトボードの記録や進行補助などを務めました。
- 5~6人が参加するリアル会場室とオンライン参加の計15人ほどをつなぐ、Zoomによるオンライン会議開催の技術的なサポートを行いました。
- メンバーの自主性を重視した活動内容となるようアドバイスしました。

市民しんぶん山科区版連載記事“きずな”リレーの記事作成

【事業概要】

区民と行政が協働で作成した区基本計画の推進を後押しするために、実際に取組が進んでいる区民の活動取材し、市民しんぶん山科区版で紹介する目的で始まった“きずな”リレー。令和2年度は4件を紹介し、平成23年の開始から合計70回となっています。取材する活動の大半が“きずな”支援事業の採択事業であり、“きずな”支援事業の具体的な活動の様子を紹介する場ともなっています。



【役割/関わり方】

企画、取材、記事作成、および活動内容の相談対応。

- 活動内容を端的に分かりやすく説明すると同時に、活動主体の熱意や工夫などを伝えるような文章となるよう努力しています。
- 取材の際に、課題もお聞きし、活動内容へのアドバイスの役割を果たす場合もあります。

【下京区】

下京区まちづくりサポート事業『SHIMOGYO+GOOD』

【事業概要】

令和元年度の下京区 140 周年を機に大きく前進した「自分ごと、みんなごとのまちづくり」の成果を活かし、次の 150 周年に向けて「良いことたくさん京都・下京区」をつくる活動を応援するため、区民提案型支援事業を一新し、令和 2 年度から「SHIMOGYO+GOOD」として実施している。今年度は、地域課題を解決するソーシャルビジネスなどの取組を支援するため、新たに事業者を応募対象としたほか、「新型コロナウイルス感染症の影響による様々な分野の課題解決に向けた取組」については、別枠として補助率を優遇している。また、事業賛同者（アンバサダー）において、次年度に向けた採択団体のプロジェクトの応援・協力制度も整えているところである。



今年度は、地域団体、公益法人・NPO法人、事業者などから 51 件の応募があり、うち 2 件を採択し、年度末の交流会を経て、来年度に向けて、地域団体と事業者との繋がりが生まれ、新しい事業が創出され、展開されることを期待している。

【役割／関わり方】

制度の企画、立案、他都市の事例収集。応募団体を募る、地域団体、事業者への参加の呼びかけと相談。採択団体の事業への参加、アドバイスなど。交流会の企画、進行。

- 制度の企画、設計に向けてのアドバイスと企画策定会議への出席。
- 応募団体への事業内容の説明と事業案の相談。
- 交流会の企画、立案とプログラム案の作成。ファシリテーター。

松原通界隈活性化活動プロジェクト委員会

【事業概要】

かつては、五条大路と呼ばれ、祇園祭の山鉾巡行も行われた松原通。松原通界隈活性化活動プロジェクト委員会は、洛央小学校、修徳児童館、松原通界隈の事業者・職人・住民との交流を通して地域の親睦を図り、この通りが持つ豊かな歴史資源をつなぐことで往時の賑わいを取り戻し、豊かな繁栄を生み出すことを目的として活動している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け需要が落ち込んだ地域の事業者だけでなく、後継者不足で後世に継承が困難な事業者、日ごろ目にすることがない伝統技術を持った事業者等の仕事を紹介する YouTube チャンネル「松原チャンネル」を開設する。また、地域の歴史を深く学ぶ勉強会として『源氏物語』オンライン講演会を開催する。



【役割／関わり方】

プロジェクト委員会への参加、企画への助言、運営支援。オンライン運営へのアドバイスと運営補助。事業者の紹介。事業者とのつながりづくり。講演会講師の紹介、講演会の運営支援。

- 会議、講演会のオンライン化の支援。
- YouTube チャンネル開設支援。
- 伝統技術を保持した事業者の紹介支援。

この事業を担当したアドバイザー 天岡昌代

南区の広報発信に関わる取組

【事業概要】

南区役所では、南区の魅力的な「ひと・もの・こと」を、紹介する「[みなみなみオンライン](#)」を運営しています。今年度は、さらなる広報発信に向けて、南区各所での写真投稿(Instagram)やPR動画作成協力(YouTube)など各SNSでのコンテンツの充実を図りました。



また、オンライン上での区民同士の情報交換を目的としたご近所 SNS「ピアッツァ」を京都府内で初めて導入するなど、新型コロナウイルスの感染拡大と影響が長期化する中、新しいスタイルでの広報発信に取り組んでいます。

【役割/関わり方】

南区の広報発信に係る取組への調整・連携・助言

- 広報素材撮影に当たってのテーマ設定、関係者調整、ロケーション
- 南区企画広報プロジェクトとの連携促進や助言
- 新規ツール導入に関する情報収集・運用・活用に関する助言

南区地域に関わる情報収集・場づくり

【事業概要】

令和元年度から、南区役所地域力推進室、南区社会福祉協議会、南青少年活動センター、まちづくりアドバイザーの四者が、近況や課題の共有、協力の要請を行う「南区地域に関わる実務者ミーティング」を行っています。4者の顔合わせの機会があることによって現場レベルのお悩み相談、事業の効率化につながっています。ミーティングの他にも、地域コミュニティ、NPO・市民活動団体、地元金融機関、事業者などとも、関係性を作りながら、まちづくりに取り組む際のヒントとなるような情報を提供しています。



【役割/関わり方】

南区地域に関わる情報収集・場づくりにおける一連の設計・運営・共有

- 南区内で活動する組織/団体/個人の情報収集や連携促進
- ミーティングの設計、計画立案、会議運営のファシリテーション、記録作成

【右京区】

右京区基本計画策定とこれからのに向けたしくみづくり

【事業概要】

次期右京区基本計画策定に向けた検討を進めていく中で、これからの右京区のまちづくりへの関わり方についても考えてきました。まちづくり活動支援制度、カフェ型事業、そして「右京かがやきミライ会議」など、次期計画に合わせてどのような内容で進めていくか、大きなしくみづくりを進めてきました。「まちづくりへの一人一人の関わり」を大事にする次期計画の大きな方針のもと、実現したい右京区のまちづくりのイメージに向けて、取り組んでいきます。



【役割／関わり方】

次期基本計画の内容、まちづくりを支えるしくみの検討全般についてサポート

- 意見収集や会議の設定、とりまとめなどの計画策定プロセスに関するアドバイス
- これまでの区役所事業の成果と課題を整理するとともに、今後の区役所の役割、区民の活動を支える区役所のあり方を考えるサポート
- 支援制度、カフェ型事業などを含めた全体の枠組みを考える際のサポート

京都京北未来かがやきビジョン推進会議の企画・運営

【事業概要】

京北地域の将来に向けた「京都京北未来かがやきビジョン」が策定されてから5年、かがやきビジョンの実現に向けて今後の方向性や進め方について地域の住民が自ら考え、地域が主体となったまちづくりを一層推進するための取組が進められています。

産学公の連携組織「京都超 SDGs コンソーシアム」と連携しながら、京北地域のみなさん一人一人の暮らし目線から目指す将来像やこれからのテーマを考え、

小さな取組を積み重ねていくためのワークショップを開催しました。多くの方が関わるより良い未来を作っていければと思っています。



【役割／関わり方】

事業の枠組みや進め方へのアドバイス、ワークショップ等の企画運営のサポート

- 事業目的や方向性の検討、事業プロセスの設定におけるアドバイス
- ワークショップ全体のプロセス構成、各回のプログラムの検討、結果分析など
- ワークショップの企画検討、当日のファシリテーションなど運営面でのサポート

この事業を担当したアドバイザー 朝倉

未来の西京まち結び～みらまち結び～

【事業概要】

西京区役所では、西京のまちを元気にしたい方、西京区の魅力をもっとみんなに伝えたい方、自分の“好き”をまちづくりや仕事に活かしたい方を結び、やりたいことの実現を応援するため、「未来の西京まち結び」を実施しました。

まちづくり活動を進めるうえで必要な知識や考え方を学び、アクションにつなげる全5回のオンライン講座と、西京のまちづくり活動に興味のある方々が出会い、交流し、語り合うオンラインカフェを実施しました。



【役割／関わり方】

事業の企画・運営の支援

- 事業全体についてのアドバイスや情報提供を行いました。
- 塾やカフェの運営補助を行いました。
- 成果や課題を分析し、今後の展開について提案しました。

西京区総合庁舎整備 設計ワークショップ

【事業概要】

西京区では、令和2年3月に「西京区総合庁舎整備基本計画」を策定しました。

今年度は、基本計画の内容を踏まえ、基本設計及び実施設計に着手するため、総合庁舎のより具体的な機能や区民交流スペースの活用方法等について区民の皆さんと意見交換するワークショップを、オンラインと会場の“ベストミックス”形式で開催しました。



【役割／関わり方】

事業の企画・運営の支援

- ワークショップの内容や進め方について提案やアドバイスを行いました。
- まちづくり活動などを行っている区民に対しワークショップの趣旨を説明し、参加を呼びかけました。
- ワークショップのグループワークでファシリテーターを担当しました。

【西京区洛西支所】

「大原野「地域ブランド」戦略」の取組

【事業概要】

平成 27 年 2 月に策定された「大原野「地域ブランド」戦略」は、今年度中間年にあたるため、各チームへのヒアリングや 4 回にわたる点検委員会での議論等を経て、改定されました。

また、コロナ禍でもさまざまな事業が行われ、ひまわり畑やフジバカマの再生活動、小学校でのかかしづくり、Instagram フォトコンテスト、農産物関係では、「マルシェ大原野」や「西山の恵み」（NPO に運営委託）、「大原野農産物品評会・即売会 2020」の開催、大原野産米（「京・西山米」）のブランド化を図りました。

さらに、観光の取組を図るため、大原野保勝会が再興されました。



【役割／関わり方】

戦略の改定及び各種事業の実施に向けたトータルサポート

- 「大原野「地域ブランド」戦略」の改定に向けたヒアリング支援及び提言
- 小学校でのかかしづくりや「西山の恵み」等での当日運営サポート
- 大原野産米のブランド化支援及び地元ホテルでの販路開拓のコーディネート
- 「大原野 Instagram フォトコンテスト」での選考委員及びカレンダー配布
- 京都新聞や地元メディアへの情報発信及び TV 取材のアテンド
- 大原野保勝会再興に向けた地元事業者等への入会勧誘及び情報発信の提言

らくさいマルシェ実行委員会による賑わいづくり

【事業概要】

平成 26 年 6 月から実行委員会形式（地元 5 事業者と洛西支所で構成）により、手作り市「らくさいマルシェ」を月 1 回開催しています。

今年度は新型コロナの影響で、3 か月程度しか開催することができませんでしたが、休止期

間中は、マルシェのあり方を見直そうと、委員会において地元事業者への出店促進策や集客対策、マルシェの雰囲気づくり、他のマルシェとの連携策などを話し合いました。

また、委員会主催で 10 月末には「らくさいハロウィン夜マルシェ」、11 月下旬から 12 月下旬にかけては「洛西イルミ」（竹を使ったイルミネーション）を開催しました。



【役割／関わり方】

らくさいマルシェ実行委員会事業のトータルサポート

- 「らくさいマルシェ」開催に向けた定例会議出席及び提言
- 「らくさいマルシェ」等の当日運営支援及び他のマルシェでの出店者勧誘
- 「洛西イルミ」開催に向けた竹 NPO とのコーディネート

【伏見区】

伏見をさかなにざっくばらん

【事業概要】

「伏見をさかなにざっくばらん」は、第2期伏見区基本計画に掲げられる3つの融合プロジェクトの1つとして、平成24年度に始まりました。最終年度となる9期目は、新型コロナウイルス感染症流行のため、毎月の定例会を開けませんでした。コロナ禍でもできることとして、FM845(京都リビングエフエム)の「ふしざくアラカルト」にふしざくチームが出演し、活動を伝えました。また、新たな試みとしてZoomを利用したオンライン交流会を2回開催しました。



【役割/関わり方】

事業の企画・運営支援

- 「ふしざく事務局会議」での企画
- FM845(京都リビングエフエム)「ふしざくアラカルト」への出演
- ふしざくオンライン交流会でのグループ進行

向島ニュータウン活性化に係る取組の推進

【事業概要】

平成29年度から今年度までの4年間、「向島ニュータウンまちづくりビジョン」に基づいて、「防災」「暮らし安心」など6つの部会に分かれて取組が進められてきました。

今年度は、向島の魅力を伝える動画を配信し、新型コロナウイルス感染防止対策のもと、オンラインでのワークショップやラジオ放送、駒札巡りなど工夫を凝らして「向島まつり」が開かれました。また、ビジョン推進期間終了後、向島のまちづくりをどのように進めていくかについて運営会議や推進会議等の場で話し合いを重ねました。



【役割/関わり方】

事業企画、取材活動支援

- 魅力発信・商業地賑わい部会での助言
- 向島まつりでの企画運営支援
- 向島まちづくりビジョン推進会議での書記

この事業を担当したアドバイザー 亀村 佳都

【伏見区深草支所】

「深草の魅力『知って』・『感じる』体感プロジェクト」企画助言

【事業概要】

深草の魅力や優れた住環境を発信し、学生や子育て世代の移住・定住を促進するとともに、地域内外の方に深草を回遊・体感してもらい、域内で経済を循環させ、更なる魅力や活力あふれるまちづくりを目指して、総合情報誌を作成しました。作成冊子には、地元教育機関・鉄道事業者・子育て支援団体等の関係機関で構成する「深草の魅力『知って』・『感じる』



体感プロジェクト」実行委員会で意見交換を行いました。また、龍谷大学の只友ゼミのみなさんにもご協力いただき、地元住民や店舗への取材・ヒアリングを行い、深草地域の「くらしの文化・歴史」等を掲載記事にまとめる作業を行いました。

【役割／関わり方】

事業全体への企画助言と実行委員会の議事進行

- 実行委員会での主体的に話し合うための場づくり・ファシリテート
- 大学との連携支援と地元住民へのマッチング支援
- 支所内の事務局会議において意見集約・企画立案への助言 他

「独居高齢者の生活に係る地域での支え合いの輪づくり」支援

【事業概要】

藤森学区で、独居高齢者の介護保険制度適用外で生活上の困りごと（例：ゴミ出し・電球交換・近隣病院（店舗）への付き添い等）をお手伝いするサポートグループ「藤ノ森高齢者のちょっとした困りごとお手伝い隊」の結成及び運営支援、持続可能な仕組みづくりを行いました。当グループは、伏見区の支援



事業の助成も受けながら、元民生児童委員を代表に地元住民有志で構成され、地域包括など福祉事業者・学識者もアドバイザーとして参画しています。持続可能な運営を目指し、30分300円を利用者に負担いただいています。生活上の困りごとは多岐にわたり、内容の見極め・リスク対応・高齢者の自立的生活を妨げないような工夫も必要で、お手伝いの手順や留意点を記した「サポートの手引き」を作成し、サポートしやすい体制を作りました。

【役割／関わり方】

持続可能な運営体制の仕組みづくり・運営支援・助言

- 持続可能な運営体制づくり（利用者側/サポーター側が共に関わりやすい体制）
- 地元関係者との連絡調整および仲間（チーム）づくり・話し合いの場づくり
- 住民サポーターへの研修や意見交換を通じた主体性の育成 他

この事業を担当したアドバイザー 白水 育世

【伏見区醍醐支所】

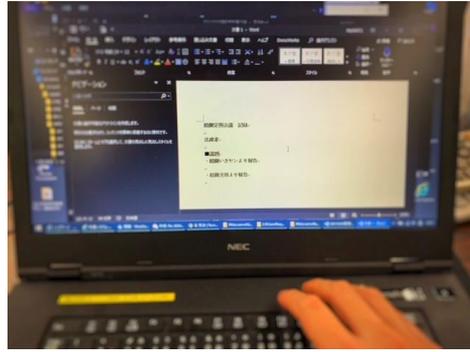
醍醐定例会議

【事業概要】

醍醐支所では、醍醐支所地域力推進室、醍醐いきいき市民活動センター、まちづくりアドバイザーの三者が、おおよそひと月に一回集まり、近況や課題の共有、協力の要請、を行う会合を行っています。

定期的な面談があることによって新しい事業のコラボレーションが生まれたり、事業の効率化が行われたりしています。

まちづくりアドバイザーは、会の企画、当日の運営、記録の作成、会議のオンライン化など、一連の段階でサポートを行いました。



【役割／関わり方】

会の運営にかかる一連のプロセスのサポート

- ▶ 計画立案、会議運営のファシリテーション
- ▶ 事業の企画段階でのアドバイス
- ▶ コラボレーションの促進

オンラインだいきいきフェスティバル

【事業概要】

醍醐いきいき市民活動センターでは、醍醐地域の市民活動グループの交流と発表の会を毎年行っていますが、今年度は新型コロナウイルスの流行で実施が危ぶまれました。

そこで、イベントのオンライン化によって、従来の目的の達成を可能としたうえで、インターネットを介した新しいネットワークの構築を実現しました。

まちづくりアドバイザーは、企画のオンライン化に関する助言、技術的なサポート、イベントの司会進行で協力しました。



【役割／関わり方】

事業のオンライン化にかかる一連の役割

- ▶ 企画の立案にかかるサポート
- ▶ オンライン化に向けた技術的なサポート
- ▶ イベントの司会進行

【地域コミュニティサポートセンター】

新しい地域活動スタイル 活動別の工夫・アイデア事例

【事業概要】

地域コミュニティサポートセンターは、コロナ禍においても地域のつながりを守るため、「新しい地域活動スタイル」事業をスタートしました。

今年度はコロナ感染症の流行により、人と会い、集まることが難しくなり、一層地域コミュニティの希薄化が懸念されました。「新しい地域活動スタイル」は、集まらずに情報伝達できるオンライン技術の導入や、感染症予防対策をしながら行う交流イベントや親睦行事などに助成し、活動の継続や見直しを支援しています。また、流動的な社会情勢の中、ベターな活動方法を見つけていただけるよう、ハブとなって各地域の工夫事例を集約し、ホームページなどで発信しています。コロナ禍は地域活動を見直すひとつのきっかけです。地域コミュニティサポートセンターでは引き続き、地域が新しい取組にチャレンジし、時代やニーズに合った活動に進化していけるよう、応援していきます。



【役割／関わり方】

パンフレットを作成するためのアドバイスや、地域の工夫事例の集約

- 自治会・町内会などにおける地域活動の実態に基づくアドバイスに努めています。
- わかりやすく発信するため活動内容に応じて事例を分類しています。

地域コミュニティを考えるまちづくりアドバイザーの会

【事業概要】

自治会・町内会などが行う地域活動の支援につなげるため、「地域コミュニティを考えるまちづくりアドバイザーの会（通称：地コミまちアドの会）」を月1回開催しています。

今年度は、オンライン参加を設けたり、ゲストをお呼びしたり、区役所で出張開催を行うなど、様々な試みを取り入れました。

地域コミュニティサポートセンターでは、地コミまちアドの会で共有した支援事例や意見交換の内容なども参考にしながら、区役所・支所やまちづくりアドバイザーと連携し、地域特性に応じた支援を効果的に行うための仕組みを検討していきます。



【役割／関わり方】

各回の企画や話題提供者との調整、当日運営など

- 地域特性に応じた支援の参考となる企画に努めています。
- 各区役所・支所担当のまちづくりアドバイザーと連携して実施しています。

この事業を担当したアドバイザー 小林 明音